

令和6年度 東京都江戸東京博物館外6施設指定管理者管理運営状況評価(一次評価)

施設名:東京都江戸東京博物館(分館江戸東京たてもの園を含む)

※評価:◎水準を上回る(2点) ○水準どおり(1点) △水準を下回る(0点)

		確認項目	評価水準	配点	評価	評価理由
管理状況	管理の実施状況	(1)施設設備の管理 (施設の維持補修・修繕)	適切な保守点検・修繕等を行い、来館者の安全確保に努めている。	×2	○	○江戸博では常設展示の魅力向上に向けた展示準備やサイン工事の調整、実施計画の推進を行った。また、たてもの園では長期修繕計画に基づく修繕や清掃、樹木管理を通じて施設の維持管理と安全確保を実施した。 ○江戸博が休館中であるため、昨年度に引き続き学芸員実習の実習生をたてもの園で受け入れた。また、たてもの園では小金井市の新任教諭や職場体験の受け入れ等も行った。 ○運営委員会を開催するとともに、江戸博・たてもの園ともに、外部評価委員会を開催し、委員の意見等を日々の業務に活かしている。特に江戸博については、運営委員会にてリニューアル後の事業運営を見据えた中長期的な視点での意見交換を行った。
		(2)危機管理 (防災・防犯への配慮、事故対応)	事故発生時、適切な対応を行い、速やかに都へ報告を行っている。	×2	○	
		(3)組織体制 (人員配置、人材育成の取組)	限られた職員数で館の効率的な運営を図っている。	×1	○	
		(4)各種法令等の遵守、個人情報保護・情報公開の取組	個人情報紛失・漏洩等事故の未然防止に努め、情報セキュリティポリシーその他法令等を遵守する。	×1	○	
		(5)業務の品質管理と自己評価	外部評価委員会の開催等、外部の意見を積極的に取り入れている。	×1	○	
	財務の状況	(1)施設の収支状況	限られた予算を効率的に執行し、収入を確実に確保する。	×2	○	◎江戸博では遺贈による寄付金を活用し、館のコレクション充実に資する資料を収集した。 ○既存備品の管理や新規に買い入れた財産の報告等を適切に行っている。
		(2)外部資金等の活用	助成金・協賛金等の外部資金を積極的に活用している。	×1	◎	
		(3)都有財産等(物品・現金等)の管理	必要に応じ都へ報告を行い、適切に物品等を管理している。	×1	○	
事業効果	事業の実施状況	(1)資料の管理 (収集、分類整理、記録、保管)	東京都の「収集の基本方針」に基づき、質の高い作品を収集するとともに、適正な環境で保管する。	×2	○	○休館中も収蔵委員会のもと、新たな資料の収集や外部倉庫での資料の保存管理業務を安定的に実施した。 ◎江戸博では、財団本部や東京都と協力しながら、収蔵資料の再評価を試行的に実施し、展覧会(出張江戸博)にて運用し、本格実施に向けて事業を進めたほか、昨年度に引き続き、ハイパー江戸博「日本橋繁昌記」を製作・公開した。たてもの園では、資料貸出を通じて外部機関との連携を図り、研究成果のフィードバックも得るなど成果が見られた。 ◎えどはく移動博物館として、出張ワークショップ40回、出張展示8回を実施し、いずれも目標回数を大きく上回った。ワークショップについては、実施会場によってはオンライン参加も可とし、より参加の機会を拡大することに努めた。また、小学校会場回では、併設するディスプレイとも連携し、児童と高齢者が交流する機会を創出するなど新たな繋がりがづくりにも寄与した。 ◎「東京ー近代版画に見る都市の創成」展では、入場者数実績が目標を大きく上回り、カタログも完売するなど好評を博した。また、「出張江戸博」では入場者達成率600%超を達成し、触察可能な実物資料の展示など新しい試みにも着手した。また、「北斎と広重展」では大阪会場(中之島雪雪美術館)で、館過去最高の入場者数を記録した。 ○復元建造物・野外博物館の特性を活かした季節ごとのイベント開催や、休館中の江戸博の新たな魅力をアピールするなど魅力ある特別展を実施した。 ◎たてもの園では、外国人向けや障害のある方向けのミュージアムトークを実施したり、昔くらし体験をアップデートするなど、着実な事業運営に取り組んだ。特に、東京学芸大学と連携協定を締結し、新たに企画提案型ボランティアを制度設計するなど、積極的な事業展開に尽力した。また、江戸博はたてもの園や東京都美術館講堂のえどはくカルチャーの実施や、学校等への出張ワークショップを開催するなどして、休館中でありながらも活発に都民や学生に対する貴重な学びの機会を提供した。
		(2)資料の活用 (貸出・借受外、資料情報システム、映像ライブラリー、収蔵品の公開等)	作品貸与やデジタル・アーカイブに積極的に取り組むなど、収蔵作品の効果的な活用を図る。	×2	◎	
		(3)調査・研究	江戸東京の歴史と文化に関する魅力あふれる研究を実施するとともに、収蔵品の調査研究活動の成果や資料情報を広く国内外に発信する。	×2	○	
		(4)常設展・企画展の内容	リニューアルオープンに向けた準備を着実に行うとともに、常設展示の内容をベースにした移動博物館を実施する。	×2	◎	
		(5)常設展・企画展の回数	移動博物館の実施回数23回	×1	◎	
		(6)特別展等の内容	リニューアルオープンに向けた準備を着実に行うとともに、収蔵品を活用し館外で展覧会を実施する。	×2	◎	
		(7)特別展等の回数	館外での展覧会の実施回数2回	×1	○	
		(8)たてもの園の事業内容	復元建造物を活かし、江戸東京の生活や商いの諸相を再現し、歴史や文化を体験してもらう。	×2	○	
		(9)たてもの園の入場者数	観覧者数 250,000人以上	×1	○	
		(10)教育普及事業	講座、体験事業、アウトリーチなど、子供、高齢者、障害者、外国人に江戸東京の歴史と文化を学べる環境を提供するとともに、社会的課題の解決に取り組む。	×2	◎	
		(11)図書室の運営	江戸東京に関する図書や定期刊行物を広く収集し、提供する。	×1	○	
		(12)その他の事業	ボランティアの活用や友の会との連携等、その他の事業についても適切に実施している。	×1	○	
	運営の実施状況	(1)休館日及び開館時間	ニーズを踏まえ臨時開館や開館延長を行っている。	×1	○	◎江戸博では、全国歴史民俗系博物館協議会の事務局館として年次集会の開催等で各館との交流を深めるとともに、災害等による被災文化財のレスキュー活動にも協力・連携している。たてもの園では、都と連携し新たに手話動画や触察模型の制作をしたほか、たてもの園ナビの機能拡充や、前川國男邸の3Dモデル作成をしToMuCoで公開するなど事業を推進させた。 ○江戸博では両国にぎわい祭りへの協力や、昨年度に引き続き両国にぎわいMAPの制作を行ったほか、たてもの園では小金井市主催の小金井桜名勝指定100周年記念事業に協力し、ビジターセンターにて写真展を開催した。 ○大手アパレルの地元店舗と連携し、江戸博の収蔵品画像を活用したオリジナルプリントTシャツの製作や、店舗におけるPRブースの設置など、積極的なプロモーションに取り組んだ。また、SNSでは休館中の事業や収蔵品紹介等を動画等で発信し、フォロワー数を増加させることができた。
		(2)都及び関係機関との連携・協力	都や他の博物館等との連携・協力体制を維持・発展させる。	×2	◎	
		(3)地域連携	地域と連携した事業や広報活動を行っている。	×2	○	
		(4)施設及び附帯設備の貸出	伝統文化を国内外に向けて発信する等、幅広い用途で貸出を行う。	×1	○	
		(5)広報、プロモーション	HPやSNSをはじめとする様々な媒体での魅力発信に努める。	×2	○	
	施設サービスの実施状況	(1)多様な利用者に配慮した施設設備	施設設備面におけるバリアフリー化を推進している。	×2	○	○たてもの園のミュージアムショップ&カフェでは、展覧会に合わせた書籍の紹介やオリジナルグッズの開発を行い、購買意欲を高めるような事業展開をした。また、テ・ラランデ邸カフェの修繕期間中には、ミュージアムショップ&カフェで軽食メニューを提供するなど、来園者のニーズを捉えた運営ができた。 ◎たてもの園の顧客満足度(総合満足度)は99.3%であり、高評価を記録した。 ○たてもの園の園内アンケートを日本語と英語で実施し、展示や接遇等への指摘があった際は関係部署へ周知し迅速に対応するとともに、対応内容は全員に周知し情報共有を行った。
		(2)案内・表示	館内サイン等について、多言語対応、バリアフリー化を積極的に進めている。	×1	○	
		(3)館内サービス (基本的サービス、飲食・物販施設)	商品の充実等を図り、魅力的な飲食・物販施設等の運営を行っている。	×1	○	
		(4)館内ホスピタリティ、苦情対応	委託業者等とも綿密に連絡を取り、ホスピタリティの向上に努める。	×1	○	
		(5)顧客満足度指標	総合満足度の割合	×1	◎	
		(6)その他 (利用促進に向けた新たな取組)	利用者アンケート等により顧客ニーズを把握し、サービス向上に努める。	×1	○	
総合	方針と目標の達成状況	基本方針と達成目標	・各定性・定量目標を着実に達成している。 ・事業計画に基づく、適切かつ継続的な事業運営が行われている。 ・多彩な事業がバランスよく実施されている。	×2	○	○江戸博・たてもの園ともに、事業計画の基本方針に沿って、事業運営が適切に行われている。江戸博は、休館中においても、大規模改修の調整を行いながら、特別展やデジタルコンテンツの作成、調査研究など、着実な事業の遂行と新たなチャレンジを両立させている。

【一次評価結果】

得点	一次評価結果
60	A

標準点	評価基準	S	63点以上
47点		A	59～62点
		B	42～58点
		C	41点以下

指定管理者の財務状況

財務状況には課題がなく、健全化に向けた取組が行われている。

特命要件の継続

特命要件	有	無
運営にあたって、都政と連動し、時代の要請に柔軟かつ迅速に対応する。	○	
幅広い分野における資料・作品の収集、保存・管理や調査研究を行うとともに、魅力的で創造性豊かな事業や展覧会を実施する等、専門性・学術性が極めて高い。	○	
各施設の取り扱う幅広い分野の専門人材、ノウハウ、他機関とのネットワークを豊富に有する。	○	

※評価水準欄に記載された事項を中心としつつ、確認項目毎に実施内容を総合的に評価する。

特記事項	
要改善事項等	

令和6年度 東京都江戸東京博物館外6施設指定管理者管理運営状況評価（一次評価）

施設名: 東京都写真美術館

※評価:◎水準を上回る(2点) ○水準どおり(1点) △水準を下回る(0点)						
		確認項目	評価水準	配点	評価	評価理由
管理状況	管理の実施状況	(1)施設設備の管理 (施設の維持補修・修繕)	適切な保守点検・修繕等を行い、来館者の安全確保に努めている。	×2	○	○随時関係部署との意見交換や事務調整を実施し、適切な施設・設備の管理や修理に努めた。 ○幹部会や学芸ミーティング、スタッフ連絡会等の、職員及び委託業者間の情報共有を定期的に実施し、館の効率的かつ一体的な組織運営に努めている。 ○企画諮問会議や外部評価委員会の設置、顧客満足度調査の実施により、事業内容の点検と、結果の施設運営への反映を適切に実施している。
		(2)危機管理 (防災・防犯への配慮、事故対応)	事故発生時、適切な対応を行い、速やかに都へ報告を行っている。	×2	○	
		(3)組織体制 (人員配置、人材育成の取組)	限られた職員数で館の効率的な運営を図っている。	×1	○	
		(4)各種法令等の遵守、個人情報保護・情報公開の取組	個人情報紛失・漏洩等事故の未然防止に努め、情報セキュリティポリシーその他法令等を遵守する。	×1	○	
		(5)業務の品質管理と自己評価	外部評価委員会の開催等を通し、外部の意見を積極的に取り入れている。	×1	○	
	財務の状況	(1)施設の収支状況	限られた予算を効率的に執行し、収入を確実に確保する。	×2	○	○支援会員の企業交流会を再開するなど、積極的に支援会員獲得に向けた活動を行い、退会する会員もいた中、新規会員の獲得に尽力した。 ○物品等は適切に管理した。
(2)外部資金等の活用		助成金・協賛金や支援会員制度等を通じた外部資金獲得に積極的に取組む。	×1	○		
(3)都有財産等(物品・現金等)の管理		必要に応じ都へ報告を行い、適切に物品等を管理している。	×1	○		
事業効果	事業の実施状況	(1)資料の管理 (収集、分類整理、記録、保管)	東京都の「収集の基本方針」に基づき、質の高い作品を収集するとともに、適正な環境で保管する。	×2	○	◎昨年度を上回る作品情報の公開に取り組み、デジタルアーカイブ化に着実に取り組んだ。資料情報システムへのアクセス件数は昨年度実績の4倍近い267,501件の訪問数となり、海外含め貸出依頼や学会誌、図録などによる図版データの照会が増加した。 ○収蔵品を活用した多様なテーマの収蔵展を実施し、それぞれの展覧会でおおむね90%近い、高い満足度を記録した。 ◎収蔵展での来場者数は、102,802人で、目標達成率118.6%(前年度比108%)と高水準な実績であった。 ◎「日本の新進作家展vol.21」への出品作家が木村伊兵衛写真賞にノミネートするなど、気鋭の作家発掘及び育成支援に貢献した。恵比寿映像祭では、米マッカーサー財団Genius Grant賞を受賞したトニー・コークスをはじめとしたアーティストを招聘し、国際的に多様な展開を行った。 ○自主企画展については、来場者数214,197人で達成率119.8%と目標を上回る実績を達成した一方で、上映事業については達成率35.9%と前年度に引き続き低い達成率となった。 ◎図書室の年間利用者数は25,673人と目標の25,000人を達成し、年間レファレンス件数も目標1,300件に対し、2,107件と大幅に達成し、顧客満足度調査でも満足度100%となっている。 ○ボランティアの活用等、その他の事業についても適切に実施している。
		(2)資料の活用 (貸出・借受外、資料情報システム、収蔵品の公開等)	作品貸与やデジタル・アーカイブに積極的に取り組み、収蔵作品の効果的な活用を図る。	×2	◎	
		(3)調査・研究	国際的な視点を踏まえた調査研究を行い、その成果を紀要やシンポジウム等で都民に還元する。	×2	○	
		(4)収蔵展の内容	収蔵作品を最大限活用し、質、満足度ともに高い展覧会を開催する。	×2	○	
		(5)収蔵展の入場者数	来場者数86,640人以上。	×1	◎	
		(6)自主企画展、上映事業、国際交流事業等の内容	多様な切り口での魅力的な展覧会を開催する。	×2	◎	
		(7)自主企画展、上映事業、国際交流事業等の入場者数	自主企画展来場者数178,710人以上、上映事業等来場者数41,630人以上。	×1	○	
		(8)教育普及事業	写真愛好家だけでなく、子供、シニア層、子育て世代、障害者など対象者に応じた多様な教育普及事業を実施し、社会的課題の解決に取り組むとともに、芸術文化の支え手の裾野を広げる。	×2	○	
		(9)図書室の運営	写真・映像の専門図書館として、作家・他美術館とのネットワークを活かした収集等を行う。	×1	◎	
		(10)その他の事業	ボランティアの活用等、その他の事業についても適切に実施している。	×1	◎	
	運営の実施状況	(1)休館日及び開館時間	ニーズを踏まえ臨時開館や開館延長を行っている。	×1	○	○木曜日及び金曜日の夜間開館を継続したほか、年末年始の特別開館やサマーナイトミュージアム、恵比寿映像祭期間中の開館時間延長なども適宜実施し、利便性の向上を図った。 ◎恵比寿映像祭では、地域連携プログラムとして近隣文化施設と連携し、映像祭を盛り上げた他、庭園美術館と協力し、相互広報のためのマップ制作を行った。 △誘致展は予定されていた展示が先方都合で一つ中止となり、来場者数は44,801人と61.3%の達成率であり、1階ホールの稼働率は目標値90%に対して実際の稼働率が78.7%であり、目標に対し及ばなかった。 ○様々な広報媒体で広報を展開し、Instagramのフォロワー数が前年度比177%増加するといった成果を上げることができた一方で、ホームページの改善には課題が残る。
		(2)都及び関係機関との連携・協力	都や他の美術館等との連携・協力体制を維持・発展させる。	×2	◎	
		(3)地域連携	地域と連携した事業や広報活動を行っている。	×2	○	
		(4)施設及び附帯設備の貸出	1階ホールの稼働率90%以上、誘致展の来場者数73,020人以上。	×1	△	
		(5)広報、プロモーション	HPやSNSをはじめとする様々な媒体での魅力発信に努める。	×2	○	
	施設サービスの実施状況	(1)多様な利用者に配慮した施設設備	施設設備面におけるバリアフリー化を推進している。	×2	○	○電話や来館者対応において、英語、韓国語、中国語が対応可能となるように受付従事者を配置するなど、多言語対応を実施している。 ◎展覧会に即してミュージアムショップ及びカフェ事業者と協力した事業運営を実施し、ミュージアムショップの管理手数料は目標値の152%達成、カフェの管理手数料は3倍の達成率であり、好調であった。 ◎顧客満足度調査において、顧客満足度(総合評価)98.4%を達成した。
		(2)案内・表示	館内サイン等について、多言語対応、バリアフリー化を積極的に進めている。	×1	◎	
		(3)館内サービス (基本的サービス、飲食・物販施設)	商品の充実等を図り、魅力的な飲食・物販施設等の運営を行っている。	×1	◎	
		(4)館内ホスピタリティ、苦情対応	委託業者等とも綿密に連絡を取り、ホスピタリティの向上に努める。	×1	○	
		(5)顧客満足度指標	総合満足度の割合	×1	◎	
(6)その他 (利用促進に向けた新たな取組)		利用者アンケート等により顧客ニーズを把握し、サービス向上に努める。	×1	○		
総合	方針と目標の達成状況	基本方針と達成目標	・各定性・定量目標を着実に達成している。 ・事業計画に基づく、適切かつ継続的な事業運営が行われている。 ・多彩な事業がバランスよく実施されている。	×2	○	○収蔵展、自主企画展ともに高い評価を受けており、年度当初に立てた来場数の目標値に対してもほとんどが上回る実績となった。また、ボランティアを活用した各種取組や、地域連携事業、広報や付帯事業の運営等にも力を入れて活動できている。

特記事項	
要改善事項等	

【一次評価結果】

得点	一次評価結果
55	A

標準点	評価基準	S	59点以上
44点		A	55～58点
		B	39～54点
		C	38点以下

指定管理者の財務状況
財務状況には課題がなく、健全化に向けた取組が行われている。

特命要件の継続		
特命要件	有	無
運営にあたって、都政と連動し、時代の要請に柔軟かつ迅速に対応する。	○	
幅広い分野における資料・作品の収集、保存・管理や調査研究を行うとともに、魅力的で創造性豊かな事業や展覧会を実施する等、専門性・学術性が極めて高い。	○	
各施設の取り扱い幅広い分野の専門人材、ノウハウ、他機関とのネットワークを豊富に有する。	○	

※評価水準欄に記載された事項を中心としつつ、確認項目毎に実施内容を総合的に評価する。

令和6年度 東京都江戸東京博物館外6施設指定管理者管理運営状況評価（一次評価）

施設名: 東京都現代美術館

※評価: ◎水準を上回る(2点) ○水準どおり(1点) △水準を下回る(0点)							
		確認項目	評価水準	配点	評価	評価理由	
管理状況	管理の実施状況	(1)施設設備の管理 (施設の維持補修・修繕)	適切な保守点検・修繕を行い、来館者の安全確保に努めている。	×2	○	○施設整備、警備、清掃等の委託業者との連絡会議等により館内の状況把握、異常の早期発見に努めるなど、日常の維持管理が適切に行われている。 ○各部署が高い専門性を有し、美術館全体が一体となり効率的な運営が図られている。 △入札において、落札できていない業者を誤って落札事業者として連絡する事故が発生した。 ○運営諮問委員会や外部評価委員会を開催し外部の意見を得て、館運営の充実を図っている。	
		(2)危機管理 (防災・防犯への配慮、事故対応)	事故発生時、適切な対応を行い、速やかに都へ報告を行っている。	×2	○		
		(3)組織体制 (人員配置、人材育成の取組)	限られた職員数で館の効率的な運営を図っている。	×1	○		
		(4)各種法令等の遵守、個人情報保護・情報公開の取組	個人情報紛失・漏洩等事故の未然防止に努め、情報セキュリティポリシーその他法令等を遵守する。	×1	△		
		(5)業務の品質管理と自己評価	外部評価委員会の開催等を通し、外部の意見を積極的に取り入れている。	×1	○		
	財務の状況	(1)施設の収支状況	限られた予算を効率的に執行し、収入を確実に確保する。	×2	◎	◎企画展の入場料収入が目標を大幅に上回った。集客増に伴う、レストラン・カフェ及びミュージアムショップ等の売上増も大きい。 ○ユニークベニユーは、休館日にしか対応できないため、利用実績とならない事例が多いが、多くの問い合わせがあり対応できている。	
(2)外部資金等の活用		助成金・協賛金等の外部資金獲得に積極的に取り組む。	×1	○			
(3)都有財産等(物品・現金等)の管理		必要に応じて都へ報告を行い、適切に物品等を管理している。	×1	○			
事業効果	事業の実施状況	(1)資料の管理 (収集、分類整理、記録、保管)	東京都の「収集の基本方針」に基づき、質の高い作品を収集し、適正な環境で保管する。	×2	○	○所蔵作品および寄託作品を円滑に管理運用するとともに、国内外への貸出も行い、資料の保全と活用を円滑に行っている。 ◎国際交流では、海外からキュレーターを招き、開館30周年を記念する国際シンポジウムを開催した。香港、台湾、ドイツ、イギリス、オランダ、イタリアの6つの国や地域で現地調査を実施した、また多くの都市等から、展覧会や共同事業などの提案、特定の作家やテーマ等についての調査や情報交換等の問い合わせや訪問を受け、現代美術館として世界から注目されている。 ◎常設展では収蔵作品に借用作品を加えた特集展示など見せ方に変化を持たせる展示構成や、アーティストによる関連イベントの開催により、コレクションを様々な切り口から紹介した。事業満足度は98.1%となっている。 ○常設展の入場者自体は135,395人で目標入場者数は上回った。 ◎企画展では、日本現代美術を総覧する展覧会や話題性に富むメディアアートの展覧会など注目度の高い展覧会の実施により、企画展全体で過去最大の動員を獲得し専門家からも高い評価となった。事業満足度は97.3%となっている。 ◎企画展の総入場者数622,671人 目標入場者数を大幅に上回った。 ○触察模型等、情報保障の取組を行った。触察ツールを活用したギャラリートークや手話と音声による彫刻作品解説動画など、障害の有無によらない間口の広い鑑賞サポートも行った。手話研修等も行っている。全米美術館協会北米支部からの団体視察の対応した。 ◎パスポートについては、前年度からの継続購入者も多く、初日だけで500部を売り上げる等、現代美術館リピーターが増えている。	
		(2)資料の活用 (貸出・借受外、資料情報システム、収蔵品の公開等)	作品貸与やデジタル・アーカイブに積極的に取り組み、収蔵作品の効果的な活用を図る。	×2	○		
		(3)調査・研究	国際的な視点を踏まえた調査研究を行い、その成果を紀要やシンポジウム等で都民に還元する。	×2	◎		
		(4)常設展の内容	常設展の実施を通して現代美術の成り立ちや魅力を紹介する。	×2	◎		
		(5)常設展の入場者数	130,000人以上。	×1	○		
		(6)企画展等の内容	国内外で注目される幅広いテーマやジャンルから選んだ企画を実現し、多様で魅力的なラインナップで開催する。	×2	◎		
		(7)企画展等の入場者数	300,000人以上。	×1	◎		
		(8)教育普及事業	特別支援学級を含む学校への対応や、高齢者及び障害者等に向けた鑑賞プログラム、ワークショップなどにより、東京の社会課題に向き合うとともに、様々な体験事業を通して現代美術の普及に取り組む。	×2	○		
		(9)美術図書室の運営	国内有数の規模を誇る美術専門図書室として専門性を高めるとともに、特色ある「こどもとよしつ」も積極的に活用する。	×1	○		
		(10)その他の事業	ボランティアの活用等、その他の事業についても適切に実施している。 また、ファン層の戦略的な拡大に向け、パスポートの活用を図る。	×1	◎		
	運営の実施状況	(1)休館日及び開館時間	ニーズを踏まえ臨時開館や開館延長を行っている。	×1	◎	◎来館者のニーズを踏まえ、混雑時に早めの開館時間、夜間臨時開館を積極的に実施した(坂本龍一展等)。サマーナイトミュージアムも好評だった。 ○海外機関のキュレーター等の訪問を多数受け、情報交換を行い、ネットワークを広げた。東京都立博物館・美術館収蔵品検索Tokyo Museum Collectionとの連携を軸とした、海外作家作品の著作権処理等、公開作品データの整備・拡充を進めた。 ○アートブックフェアをはじめ、地域と連携した取り組みを行っている。地域のイベントにも積極的に参加している。 ◎HPの目標アクセス数を上回った。SNSを積極的に活用した広報計画は、主なターゲットとなる若い層に上手くはまっている。来館者の年齢構成では10代、20代が32.2%で最も高い。大型展で増えたフォロワーが根付いていくという成果を生み、広報の効果を高めている。同時に50代以上の来館者も多く、現代美術館が根付いていることを感じさせる。	
		(2)都及び関係機関との連携・協力	都や他の美術館等との連携・協力体制を維持・発展させる。	×2	○		
		(3)地域連携	地域と連携した事業展開・広報活動を行っている。	×2	○		
		(4)施設及び附帯設備の貸出	幅広い用途にて貸し出しを図るとともに、リピーターを増やすことで、稼働率及び収入の向上を図る。	×1	○		
		(5)広報、プロモーション	HPやSNSをはじめとする様々な媒体での魅力発信に努める。	×2	◎		
	施設サービスの実施状況	(1)多様な利用者に配慮した施設設備	施設設備面におけるバリアフリー化を推進している。	×2	○	○企画展示室は原則エスカレーター利用だが、車いす利用者等はバックヤードのEVをご案内するなど来館者に寄り添った対応に努めている。 ○多言語やアクセシビリティの向上に取り組んでいる。Uni-Voice及びロジャーの導入や触察用フロアマップの閲覧・配布など、きめ細やかな対応を実施した。施設や設備のみならず、事業・運営面においても広義のバリアフリーを進めている。 ○展覧会に合わせた商品を選定し、展覧会ごとにラインナップを変え、来館者のニーズを捉えた店舗作りを行った。来場者からは企画展の商品が少ないという声があった。展覧会とのコラボメニューを作成する等、より魅力あるレストラン・カフェを目指している。 ○アンケートの共有と対応を行っている。展覧会アンケートは、用紙に加えインターネットでも受け付けた。利用者視点で便利で快適な窓口の実現を目的に、ユーザーレビュー用のQRコードを各窓口に設置した。 ◎総合満足度は97.5%と高い。 ○人気展の夜間臨時開館等、来館者のニーズを踏まえ、臨時開館等を積極的に実施した。	
		(2)案内・表示	館内サイン等について、多言語対応、バリアフリー化を積極的に進めている。	×1	○		
		(3)館内サービス (基本的サービス、飲食・物販施設)	商品の充実等を図り、魅力的な飲食・物販施設等の運営を行っている。	×1	○		
		(4)館内ホスピタリティ、苦情対応	委託業者等とも綿密に連絡を取り、ホスピタリティの向上に努める。	×1	○		
		(5)顧客満足度指標	総合満足度の割合	×1	◎		
		(6)その他 (利用促進に向けた新たな取組)	利用者アンケート等により顧客ニーズを把握し、サービス向上に努める。	×1	○		
	総合	方針と目標の達成状況	基本方針と達成目標	・各定性・定量目標を着実に達成している。 ・事業計画に基づく、適切かつ継続的な事業運営が行われている。 ・多彩な事業がバランスよく実施されている。	×2	◎	研究にもとづいたコレクション展、多彩な企画展を開催し、目標の年間来館者数を大幅に超えることができた。総合満足度も非常に高い。 様々な来館者に満足していただけるよう取り組んでいる。

【一次評価結果】

得点	一次評価結果
59	S

標準点	評価基準	S	59点以上
44点		A	55～58点
		B	39～54点
		C	38点以下

指定管理者の財務状況
財務状況には課題がなく、健全化に向けた取組が行われている。

特命要件の継続		
特命要件	有	無
運営にあたって、都政と連動し、時代の要請に柔軟かつ迅速に対応する。	○	
幅広い分野における資料・作品の収集、保存・管理や調査研究を行うとともに、魅力的で創造性豊かな事業や展覧会を実施する等、専門性・学術性が極めて高い。	○	
各施設の取り扱う幅広い分野の専門人材、ノウハウ、他機関とのネットワークを豊富に有する。	○	

※評価水準欄に記載された事項を中心としつつ、確認項目毎に実施内容を総合的に評価する。

特記事項	
要改善事項等	

令和6年度 東京都江戸東京博物館外6施設指定管理者管理運営状況評価（一次評価）

施設名: 東京都美術館

※評価: ◎水準を上回る(2点) ○水準どおり(1点) △水準を下回る(0点)

		確認項目	評価水準	配点	評価	評価理由
管理状況	管理の実施状況	(1)施設設備の管理 (施設の維持補修・修繕)	適切な保守点検・修繕等を行い、来館者の安全確保に努めている。	×2	○	○必要に応じた修繕、補修等を実施している。清掃満足度は97.6%であり適切に管理されている ○地震・火災に対応した自衛防災訓練を2回実施。2回目は介助セミナーを実施し、車椅子利用者等の避難誘導時の介助について多数のスタッフが学習した。 ○海外出張を含み積極的に研修へ参加する等能力向上に努めている。 △図録の価格を誤って販売、業者への見積依頼誤送信(機密・個人情報含まず) ○各事業及び館の運営に関し、学芸会議・経営会議、外部評価委員会を適切に実施 ○事業改善に向けて外部評価委員会の意見を運営向上に活かしている。
		(2)危機管理 (防災・防犯への配慮、事故対応)	事故発生時、適切な対応を行い、速やかに都へ報告を行っている。	×2	○	
		(3)組織体制 (人員配置、人材育成の取組)	限られた職員数で館の効率的な運営を図っている。	×1	○	
		(4)各種法令等の遵守、個人情報保護・情報公開の取組	個人情報紛失・漏洩等事故の未然防止に努め、情報セキュリティポリシーその他法令等を遵守する。	×1	△	
		(5)業務の品質管理と自己評価	外部評価委員会の開催等を通し、外部の意見を積極的に取り入れている。	×1	○	
	財務の状況	(1)施設の収支状況	限られた予算を効率的に執行し、収入を確実に確保する。	×2	○	○物価高騰に対応するために、一層の経費削減に努めるとともに、レストラン・ショップ等についても好調で目標の収入額を大きく上回り予算を大幅に上回る収入を確保した。 ○助成金等の外部資金獲得はなくても、適切な収支で運営している。 ○物品等の管理は適切に行われている。
		(2)外部資金等の活用	助成金・協賛金等の外部資金獲得に積極的に取組む。	×1	○	
		(3)都有財産等(物品・現金等)の管理	必要に応じ都へ報告を行い、適切に物品等を管理している。	×1	○	
事業効果	事業の実施状況	(1)資料の管理 (分類整理、記録、保管)	適宜調査や補修等を行い、収蔵品を適切に管理している。	×1	○	◎コレクション展では、写美、現美、江戸博など財団内の美術館等の作品を有効活用した展覧会を実施し目標入場者数を大幅に上回り、好評であった。 ○調査・借用交渉を目的とした海外出張も実施し、展覧会の充実に資することができている ◎「印象派 モネからアメリカへ ウスター美術館所蔵」では会期終盤も客足は落ちず、目標数値を大きく上回った。「デ・キリコ展」では満足度が99%と過去最高を記録した。「田中一村展 奄美の光 魂の絵画」近代日本画家の個展としては異例の高い動員数を記録し、その内容とともに、一村の決定版的な大回顧展となった。 ○特別展の入場者数は616,349人で、目標達成率は88%であった。 ◎「大地に耳をすます 気配と手ざわり」の動員は開幕時から順調で、目標数値を達成した。また観覧者満足度は98%と非常に高いものとなった。「上野アーティストプロジェクト 2024 ノスタルジアー記憶の中の景色」では目標の入場者数を大きく上回る(219%)とともに鑑賞空間の創出等の工夫などにより満足度95%と好評を得た。 ◎企画展の入場者数は59,964人で、目標達成率は150%であった。 ◎R6年度は「Creative Ageing ずっとび」に焦点を当て、「クリエイティブエイジング」につながる活動を紹介した。常に変化する人間の創造力の可能性、豊かに年を重ねていくためにアートが果たす力やミュージアムの役割について考える機会とした。また他のアートコミュニケーション事業においていほすべての項目で目標値を大幅に上回った。 ○美術情報室利用者数は、特別展の開催日数減分目標値を下回ったものの、他の事項ではいずれも目標を達成している。アトラウンジでは、「まちなかコンサート」および「東京都美術館と佐藤慶太郎」を実施し、利用者満足度は91.3%であった。 ○都美セレクショングループ展も着実に実施した。
		(2)資料の活用 (貸出・借受外)	他の都立文化施設の収蔵資料を活用することで、鑑賞の機会を提供し、有効活用を図る。、	×2	◎	
		(3)調査・研究	館独自の事業やICTを活用した事業等に関わる調査研究等を行い、その成果を広く社会に還元する。	×2	○	
		(4)特別展の内容	多様な視点で時代や地域を紹介する、質の高い芸術作品を用いた展覧会を開催する。	×2	◎	
		(5)特別展の入場者数	入場者数700,000人以上。	×1	○	
		(6)企画展の内容	創造や共生の場となり、「生きる糧としてのアート」と出会える場になるような展覧会を開催する。	×2	◎	
		(7)企画展の入場者数	入場者数 39,900人以上。	×1	◎	
		(8)教育普及事業(アートコミュニケーション事業)	子供、青少年、高齢者、障害者、外国人等が主体的に参加できるプログラムの充実により、社会的課題の解決に取り組むとともに、他の自治体及び他館への普及を図る。	×2	◎	
		(9)美術情報室、アトラウンジの運営	美術情報室について、ライブラリー機能に、館のアーカイブズの役割を加え、より広範で深い美術情報を提供する場とする。	×1	○	
		(10)その他の事業	公募展活性化事業等、その他の事業についても適切に実施している。	×1	○	
	運営の実施状況	(1)休館日及び開館時間	ニーズを踏まえ臨時開館や開館延長を行っている。	×1	○	
		(2)都及び関係機関との連携・協力	都や他の美術館等との連携・協力体制を維持・発展させる。	×2	○	
		(3)地域連携	地域と連携した事業展開・広報活動を行っている。	×2	◎	
		(4)施設及び附帯設備の貸出	公募展示室使用割当時稼働率 100%及びその他貸出施設等についても有効活用に努める。	×1	○	
		(5)広報、プロモーション	HPやSNSをはじめとする様々な媒体での魅力発信に努める。	×2	○	
	施設サービスの実施状況	(1)多様な利用者に配慮した施設設備	施設設備面におけるバリアフリー化を推進している。	×2	○	
		(2)案内・表示	館内サイン等について、多言語対応、バリアフリー化を積極的に進めている。	×1	○	
		(3)館内サービス (基本的サービス、飲食・物販施設)	商品の充実等を図り、魅力的な飲食・物販施設等の運営を行っている。	×1	◎	
		(4)館内ホスピタリティ、苦情対応	委託業者等とも綿密に連絡を取り、ホスピタリティの向上に努める。	×1	○	
		(5)顧客満足度指標	総合満足度の割合	×1	◎	
		(6)その他 (利用促進に向けた新たな取組)	利用者アンケート等により顧客ニーズを把握し、サービス向上に努める。	×1	○	
総合	方針と目標の達成状況	基本方針と達成目標	・各定性・定量目標を着実に達成している。 ・事業計画に基づく、適切かつ継続的な事業運営が行われている。 ・多彩な事業がバランスよく実施されている。	×2	○	関係各機関と連携し、質の高い展示・研究を着実に実施するとともに、アート・コミュニケーション事業では多彩なプログラムを展開し、社会包摂を意識した事業にも積極的に取り組むなど、美術の振興と発展に貢献している。

【一次評価結果】

得点	一次評価結果
55	A

標準点	評価基準	S	58点以上
43点		A	54～57点
		B	38～53点
		C	37点以下

指定管理者の財務状況
財務状況には課題がなく、健全化に向けた取組が行われている。

特命要件の継続		
特命要件	有	無
運営にあたって、都政と連動し、時代の要請に柔軟かつ迅速に対応する。	○	
幅広い分野における資料・作品の収集、保存・管理や調査研究を行うとともに、魅力的で創造性豊かな事業や展覧会を実施する等、専門性・学術性が極めて高い。	○	
各施設の取り扱い幅広い分野の専門人材、ノウハウ、他機関とのネットワークを豊富に有する。	○	

※評価水準欄に記載された事項を中心としつつ、確認項目毎に実施内容を総合的に評価する。

特記事項	
要改善事項等	

令和6年度 東京都江戸東京博物館外6施設指定管理者管理運営状況評価（一次評価）

施設名: 東京都庭園美術館

※評価：◎水準を上回る(2点)　○水準どおり(1点)　△水準を下回る(0点)							
		確認項目	評価水準	配点	評価	評価理由	
管理状況	管理の実施状況	(1)施設設備の管理 （施設の維持補修・修繕）	適切な保守点検・修繕を行い、来館者の安全確保に努めている。 重要文化財としての旧朝香宮邸本館・茶室や庭園の維持保全のため、適切な管理に努めている。	×2	◎	◎重要文化財である本館、茶室、庭園等を適正に維持管理し、良好な状態を保っている。 各種補修工事や部品交換等、メンテナンス周期の適切な把握と、優先度を考慮し管理している。	
		(2)危機管理 （防災・防犯への配慮、事故対応）	事故発生時、適切な対応を行い、速やかに都へ報告を行っている。	×2	○	○サインボードやメッセージボードを用いて災害弱者に向けた自衛消防訓練を実施し、あらゆる人々に開かれた美術館としての備えを整えている。	
		(3)組織体制 （人員配置、人材育成の取組）	限られた職員数で館の効率的な運営を図っている。	×1	○	○他館や都での事故発生時など折に触れ、全体会や係長会などで副館長講話や情報セキュリティポケットメモを利用した注意点の周知などを行った。	
		(4)各種法令等の遵守、個人情報保護・情報公開の取組	個人情報紛失・漏洩等事故の未然防止に努め、情報セキュリティポリシーその他法令等を遵守する。	×1	○	◎保存活用計画の策定のため、検討委員会を複数回開き、委員や文化財建造物保存技術協会から、専門的意見を聞きながら、現状を把握し、今後の保存・活用の方向性をまとめた。	
		(5)業務の品質管理と自己評価	外部評価委員会の開催等を通し、外部の意見を積極的に取り入れている。	×1	◎		
	財務の状況	(1)施設の収支状況	限られた予算を効率的に執行し、収入を確実に確保する。	×2	○	○美術館のオリジナル商品の開発等を進め、ショップが売上が大幅に伸びている。	
(2)外部資金等の活用		助成金・協賛金等を通じた外部資金獲得に積極的に取り組む。	×1	○	○ロケ撮影や、ユニークベニューの貸出を行っている。特にユニークベニューは問い合わせが多く、利用料収入も増えている。令和6年度の貸出は4件で、庭園美術館ならではといえる。		
(3)都有財産等(物品・現金等)の管理		必要に応じ都へ報告を行い、適切に物品等を管理している。	×1	○	○物品等、適切に管理している。		
事業効果	事業の実施状況	(1)資料の管理 （収集、分類整理、記録、保管）	東京都の「収集の基本方針」に基づき、質の高い作品を収集し、適正な環境で保管する。	×2	○	○方針に沿った作品や資料を収集している。 ○作品の新規撮影を行うなど、デジタル・アーカイブにも取り組んでいる。	
		(2)資料の活用 （貸出・借受外、資料情報システム、収蔵品の公開等）	作品貸与やデジタル・アーカイブに積極的に取り組み、収蔵作品の効果的な活用を図る。	×2	○	○長年取り組んでいる業務、研究成果を専門的に紀要にまとめている。 ◎照明に関する建物公開展へ目標を超える多くの来場者があり、98.4%と高い満足度を得た。	
		(3)調査・研究	国際的な視点を踏まえた調査研究を行い、その成果を紀要やシンポジウム等で都民に還元する。	×2	○	◎保存活用計画案を策定し今後の保存、活用への指針をまとめたことも大きい。	
		(4)建物・庭園公開事業の内容	旧朝香宮邸や庭園の調査研究に基づき、その文化財としての価値を様々な観点から紹介する建物公開展を実施する。	×2	◎	◎建物公開展の入場者数55,302人（一日平均1,106人）と目標を上回った。満足度も98.4%と高水準となっている。	
		(5)建物・庭園公開事業の入場者数	入場者数40,000人以上。	×1	◎	◎企画展は、各展覧会50,000人を超える来場者を記録し、全体として目標を大きく上回る結果となった。会場構成に工夫を凝らし、アール・デコの装飾空間と一体となって作品と向き合う庭園美術館ならではの鑑賞体験を提供した。	
		(6)企画展の内容	館の基本方針を踏まえ、空間特性を活かしながら、国内外の装飾芸術を魅力的に紹介する。	×2	◎	◎企画展目標入場者数145,000人にたいして、実際の入館者数は163,879人で、目標入場者数を大幅に上回った。	
		(7)企画展の入場者数	入場者数145,000人以上。	×1	◎	◎茶室「光華」を活用した季節毎の茶会や、親子を対象とした「こども茶会」、茶室の建築に焦点を当て、専門家を講師に招聘してのトークイベントの開催、また、都内の高校茶道部と各国大使館やその下部組織との交流を通した多文化共生プログラム「光華倶楽部」を実施している。応募者も多く抽選となるなど、参加者にも好評を博している。外部評価としても継続を希望する声があがっている。	
		(8)教育普及事業	子供、青少年、障害者や高齢者、子育て世代、外国人等あらゆる人々が参加できるワークショップや各種イベント等の開催を通じ、社会的課題の解決に取り組むとともに、多くの人に文化財の価値や意義を伝える。	×2	◎	◎目黒駅開業140周年のイベントなど、今まで美術館に来館されなかった層への取り組みも行っている。サマーナイトミュージアムや、桜の開花期と紅葉の時期の年2回時間延長を行っている。パスポートは販売数の倍増、オンラインでの予約販売の開始を行った。	
		(9)その他の事業	ファン層の拡大に向け、パスポートの戦略的な運営を図る。	×1	◎		
	運営の実施状況	(1)休館日及び開館時間	ニーズを踏まえ臨時開館や開館延長を行っている。	×1	○	○庭園能で来場者の利便性向上のため一部、指定席を導入したところ早急に売り切れた。	
		(2)都及び関係機関との連携・協力	都や他の美術館等との連携・協力体制を維持・発展させる。	×2	◎	◎美術館独自に、写真美術館とともに「おとなり美術館散歩」を作成する等、連携している。	
		(3)地域連携	地域と連携した事業展開・広報活動を行っている。	×2	◎	◎目黒駅開業140周年の記念イベントを開催する等、地域と連携した取り組みを積極的に行っている。学校連携も継続的な努力により、教員からの問い合わせが増え、成果がでている。庭園マルシェ、ガーデンコンサートや能のイベントなど庭園利用の活性化にも取り組んでいる。	
		(4)施設及び附帯設備の貸出	幅広い用途にて貸し出しを図るとともに、リピーターを増やすことで、稼働率向上を図る。	×1	◎	◎施設利用ではユニークベニューに積極的に取り組むほか、人気の建物公開展は、リピーターも楽しめるよう意識し工夫している。	
		(5)広報、プロモーション	HPやSNSをはじめとする様々な媒体での魅力発信に努める。	×2	◎	◎インスタグラムのフォロワー数増大や、フラットデーの試み、目黒駅開業140周年のイベント等、来館のハードルを下げ、新しい来館者の取り込みに意欲的に取り組んでいる。	
	施設サービスの実施状況	(1)多様な利用者に配慮した施設設備	施設設備面におけるバリアフリー化を推進している。	×2	○		
		(2)案内・表示	館内サイン等について、多言語対応、バリアフリー化を積極的に進めている。	×1	○	○重要文化財という制約もあり、施設面での完全なバリアフリーは難しいが、防災訓練では車椅子利用者の階段での避難訓練も行うなど、スタッフ全員で努力している。	
		(3)館内サービス （基本的サービス、飲食・物販施設）	商品の充実等を図り、魅力的な飲食・物販施設等の運営を行っている。	×1	○	○手話通訳や視覚支援機器の導入、外国人や海外ルーツの方対象の「やさしい日本語」プログラムの導入などを実施をしている。今年度から社会共生担当が着任した。	
		(4)館内ホスピタリティ、苦情対応	委託業者等とも綿密に連絡を取り、ホスピタリティの向上に努める。	×1	○	○多様なグッズ開発(庭美オリジナルコーヒーやマグネット、マスキングテープ等)を進め売上増を図っている。	
		(5)顧客満足度指標	総合満足度の割合	×1	◎	○安全な鑑賞の基盤となる災害時対応において、外国人や聴覚障害者への対応の充実を図った。	
		(6)その他 （利用促進に向けた新たな取組）	利用者アンケート等により顧客ニーズを把握し、サービス向上に努める。	×1	○	◎総合満足度は97.9%。 ○利用しやすい料金での年間パスポート、庭園パスポートを発行している。	
	総合	方針と目標の達成状況	基本方針と達成目標	・各定性・定量目標を着実に達成している。 ・事業計画に基づく、適切かつ継続的な事業運営が行われている。 ・多彩な事業がバランスよく実施されている。	×2	◎	保存活用計画の策定、グランドデザインの取り組み等、建物と庭園の保存、活用に積極的に取り組んでいる。多彩な企画展を開催し、総合満足度は97.9%と高い。あらゆる人々に開かれた美術館のために熱心に取り組んでいる。

【一次評価結果】

得点	一次評価結果
65	S

標準点	評価基準	S	58点以上
43点		A	54～57点
		B	38～53点
		C	37点以下

指定管理者の財務状況
財務状況には課題がなく、健全化に向けた取組が行われている。

特命要件の継続		
特命要件	有	無
運営にあたって、都政と連動し、時代の要請に柔軟かつ迅速に対応する。	○	
幅広い分野における資料・作品の収集、保存・管理や調査研究を行うとともに、魅力的で創造性豊かな事業や展覧会を実施する等、専門性・学術性が極めて高い。	○	
各施設の取り扱う幅広い分野の専門人材、ノウハウ、他機関とのネットワークを豊富に有する。	○	

※評価水準欄に記載された事項を中心としつつ、確認項目毎に実施内容を総合的に評価する。

特記事項	
要改善事項等	

令和6年度 東京都江戸東京博物館外6施設指定管理者管理運営状況評価（一次評価）

施設名: 東京文化会館

※評価: ◎水準を上回る(2点) ○水準どおり(1点) △水準を下回る(0点)

		確認項目	評価水準	配点	評価	評価理由
管理状況	管理の実施状況	(1)施設設備の管理 (施設の維持補修・修繕)	適切な保守点検・修繕等を行い、来館者の安全確保に努めている。	×2	○	○定期点検の報告に基づく迅速な修繕を実施し、来場者の安全を確保している。 ○消防法に基づき防災訓練を2回実施し、消火器及びAEDの使用訓練を行い、館内委託事業者を含めたスタッフの防災スキルの向上に努めた。 ○都や他団体で発生した情報漏えいの事例を職員に共有し、情報セキュリティの意識向上と事故発生時の対応の周知を継続的に行った。
		(2)危機管理 (防災・防犯への配慮、事故対応)	事故発生時、適切な対応を行い、速やかに都へ報告を行っている。	×2	○	
		(3)組織体制 (人員配置、人材育成の取組)	限られた職員数で館の効率的な運営を図っている。	×1	○	
		(4)各種法令等の遵守、個人情報保護・情報公開の取組	個人情報紛失・漏洩等事故の未然防止に努め、情報セキュリティポリシーその他法令等を遵守する。	×1	○	
		(5)業務の品質管理と自己評価	外部評価委員会の開催等を通し、外部の意見を積極的に取り入れている。	×1	○	
	財務の状況	(1)施設の収支状況	限られた予算を効率的に執行し、収入を確実に確保する。	×2	◎	◎昨年度に引き続き収支は黒字を達成している。 ◎文化庁等助成金では総合支援事業での採択され、地域創造、野村財団等の助成金も採択された。また、音コンで7社から協賛金を獲得した。(目標比130%) ○適切に物品管理をしている。
		(2)外部資金等の活用	助成金・協賛金等の外部資金獲得に積極的に取組む。	×1	◎	
		(3)都有財産等(物品・現金等)の管理	必要に応じ都へ報告を行い、適切に物品等を管理している。	×1	○	
事業効果	事業の実施状況	(1)施設の貸出 (大ホール、小ホール)	大ホール稼働率 90%以上、小ホール稼働率 80%以上。	×2	○	○大ホール96%(対目標107%)、小ホール85.2%(対目標107%) ○リハーサル室の稼働率 92.3% ○「IRCAMシネマ「狂った一頁」〜ボンビドゥー・センターと歴史的無声映画のコラボレーション〜」について内容満足度は87%と高かった。 ◎各事業へ音コン入賞者等を積極的に起用(起用目標150人→実績204人) アートマネジメント・インターンを延べ10名受入れ(目標2名→実績:10名) ◎「夏休み子ども音楽会」は、入場者数目標1,800人に対し実績2,081名を達成し、連携施設の無料入場バスポートの特典により、上野地域の活性化にも繋がっている。 ○レファレンス件数目標の達成率は79%だったがウェブ閲覧件数目標の達成率は136%。LPレコードの所蔵情報を図書館システムで検索できるようにする取組を昨年度から継続して行った。 ○メンバーズの登録者は着実が増加しており、館の魅力発信に加え、貸館公演でもチケット先行発売や割引販売などの特典情報があり、自主事業の情報源としても一定認知され有益な情報発信ツールとして機能している。登録者数目標:35,200人→実績:35,261(約100%)
		(2)施設の貸出 (リハーサル室、会議室等)	会議室等について積極的な貸出を行う。	×1	○	
		(3)芸術文化の振興に関する事業 (創造・発信)	質の高い創造を行い、全国への幅広い成果の波及を図るとともに、オンラインプログラムの製作・配信など、最先端技術の活用にも取り組む。	×2	○	
		(4)芸術文化の振興に関する事業 (育成・支援)	才能を持つ新進・若手音楽家等を発掘、起用し育成を図る。	×2	◎	
		(5)芸術文化の振興に関する事業 (次世代への投資・社会的課題の解決)	子供や高齢者、障害者などに向けたワークショップ・アウトリーチ活動を積極的に行い、音楽文化の継承を図るとともに、社会的課題解決に取り組む。	×2	◎	
		(6)音楽資料室の運営	利用実態等を踏まえた運営を行い、顧客満足度を向上させる。	×1	○	
		(7)その他の事業	「東京文化会館メンバーズ」の運営等、その他の事業についても適切に実施している。	×1	○	
	運営の実施状況	(1)休館日及び開館時間	ニーズを踏まえ臨時開館や開館延長を行っている。	×1	○	○年末年始に大ホール、小ホールでの公演開催の要望があるため臨時開館 ◎上野公園9文化機関が連携するMuseum Start あいうえの に参画。上野公園9文化機関が連携し、子供たちが文化やアートを介して「社会に参加しつながりを持つこと」を推進 ○都立文化施設を親子で巡る企画、アート・ま・わるる おばけと一緒にアート探検に参画し協力した。 ○様々な媒体での魅力発信に努めた。Twitterフォロー数目標達成率 107%、ウェブサイトアクセス数目標達成率 116%
		(2)都及び関係機関との連携・協力	都や他のホール・劇場等との連携・協力体制を維持・発展させる。	×2	◎	
		(3)地域連携	地域と連携した事業展開・広報活動を行っている。	×2	○	
		(4)広報、プロモーション	HPやSNSをはじめとする様々な媒体での魅力発信に努める。	×2	○	
	施設サービスの実施状況	(1)多様な利用者に配慮した施設設備	施設設備面におけるバリアフリー化を推進している。	×2	○	○視覚・聴覚障害者への情報サポート推進するため、触知模型および点字ガイドブックの運用を開始しアクセシビリティの向上を図った。 ○誰でもわかりやすい「やさしい日本語版」の館パンフレットを作成し配布を開始した。また、各窓口にタブレットを設置し、遠隔手話通訳サービス等の運用を開始した。 ◎SNS等でタイムリーに情報発信を行ったほか、来館者層のニーズに応える商品ラインナップの提供、オリジナルグッズの制作、主催事業や催事と連携した企画販売を実施した。バックステージツアーにてオリジナルグッズの紹介チラシを配布し、収益確保に努めた。管理手数料等収益見込:46,431千円→実績:66,687千円(143.6%) ○アクセシビリティ向上(情報サポート)研修を2回実施 ○利用者からの苦情意見に対し、館内で連携して適切な対応を行っている。 ◎総合満足度96.5% 事業満足度 大ホール公演 99.4%、小ホール公演 98.3%
		(2)案内・表示	館内サイン等について、多言語対応、バリアフリー化を積極的に進めている。	×1	○	
		(3)館内サービス (基本的サービス、飲食・物販施設)	商品の充実等を図り、魅力的な飲食・物販施設等の運営を行っている。	×1	◎	
		(4)館内ホスピタリティ、苦情対応	委託業者等とも綿密に連絡を取り、ホスピタリティの向上に努める。	×1	○	
		(5)顧客満足度指標	総合満足度の割合	×1	◎	
		(6)その他 (利用促進に向けた新たな取組)	利用者アンケート等により顧客ニーズを把握し、サービス向上に努める。	×1	○	
総合	方針と目標の達成状況	基本方針と達成目標	・各定性・定量目標を着実に達成している。 ・事業計画に基づく、適切かつ継続的な事業運営が行われている。 ・多彩な事業がバランスよく実施されている。	×2	○	○「音楽・舞台芸術の殿堂」にふさわしい良質な公演の鑑賞機会を確保すると同時に、次世代への音楽文化の継承と教育普及、社会包摂・社会課題の解決といった今後より一層重視される課題にも、力を入れて取り組んでいる。また、ホスピタリティの充実と安全対策の強化も図っている。

特記事項	
要改善事項等	

【一次評価結果】

得点	一次評価結果
49	A

標準点	評価基準	S	51点以上
38点		A	48～50点
		B	34～47点
		C	33点以下

指定管理者の財務状況
財務状況には課題がなく、健全化に向けた取組が行われている。

特命要件の継続		
特命要件	有	無
運営にあたって、都政と連動し、時代の要請に柔軟かつ迅速に対応する。	○	
幅広い分野における資料・作品の収集、保存・管理や調査研究を行うとともに、魅力的で創造性豊かな事業や展覧会を実施する等、専門性・学術性が極めて高い。	○	
各施設の取り扱い幅広い分野の専門人材、ノウハウ、他機関とのネットワークを豊富に有する。	○	

※評価水準欄に記載された事項を中心としつつ、確認項目毎に実施内容を総合的に評価する。

令和6年度 東京都江戸東京博物館外6施設指定管理者管理運営状況評価（一次評価）

施設名:東京芸術劇場

		確認項目	評価水準	配点	評価	評価理由
管理状況	管理の実施状況	(1)施設設備の管理 （施設の維持補修・修繕）	適切な保守点検・修繕等を行い、来館者の安全確保に努めている。	×2	○	○館内連絡会等の定期的な開催により、情報共有を行い、業務改善に繋げている。また、長期休館を利用して消火設備や展示稼働壁の修繕を行い、利便性、安全性の向上を図っている。 ○休館期間を利用し、全ホールで設備更新工事を実施したほか、舞台の安全作業のため、外部講座へ参加するなど、安全対策を向上させている。 ○自衛消防訓練や障害当事者を含めた防火防災救助訓練を実施するなど、防災意識を高める取組を進めている。
		(2)危機管理 （防災・防犯への配慮、事故対応）	事故発生時、適切な対応を行い、速やかに都へ報告を行っている。	×2	○	
		(3)組織体制 （人員配置、人材育成の取組）	限られた職員数で館の効率的な運営を図っている。	×1	○	
		(4)各種法令等の遵守、個人情報保護・情報公開の取組	個人情報紛失・漏洩等事故の未然防止に努め、情報セキュリティポリシーその他法令等を遵守する。	×1	○	
		(5)業務の品質管理と自己評価	外部評価委員会の開催等を通し、外部の意見を積極的に取り入れている。	×1	○	
	財務の状況	(1)施設の収支状況	限られた予算を効率的に執行し、収入を確実に確保する。	×2	○	○休館が予定されているため、公演事業は、9月までに工夫して集中的に実施した。また、新たな文化庁の助成金を獲得するなど、収入確保に努め、館として収支相償を達成した。 ○協賛金等獲得金額は前年度比36%増と一定の成果をあげた。
		(2)外部資金等の活用	助成金・協賛金等の外部資金獲得に積極的に取組んでいる。	×1	○	
(3)都有財産等(物品・現金等)の管理		必要に応じ都へ報告を行い、適切に物品等を管理している。	×1	○		
事業効果	事業の実施状況	(1)施設の貸出 （大ホール、中ホール、小ホール）	稼働率について、大ホール 70%以上、中ホール 87%以上、小ホール1 96%以上、小ホール2 94%以上。	×2	◎	◎大ホール：79. 3%、中ホール：98. 6%、小ホール1：97. 4%、小ホール2：98. 8%と、高い稼働率の実績で適切な運営を実施した。 ◎芸術劇場とノダ・マップと共催公演 芸術監督野田秀樹による新作書下ろし公演「正三角関係」は、全47公演で43,407人を動員、目標3万人を上回った(達成率は144%)。英ロンドンでも公演を4回開き、当初目標約3倍の5839人を動員するなど、高評価を得た。現地メディアによる劇評は10媒体ほど掲載され、芸劇のプレゼンスを高めた。 ◎ゼレールの家族3部作 「父」「息子」に続いて「母」を上演したことにより、家族三部作の完全上演を果たし企画力をアピールした。本作のオリジナル版演出家であるフランス人若手気鋭演出家を招聘し、質の高い公演を届けた。全国8都市の公共劇場でも公演し、広域的ネットワークの構築、地方文化振興の観点でも貢献した。 ◎社会包摂プログラム 「東京のはら表現部」や「ホワイトハンドコーラス」「社会共生セミナー」の実施など、様々な社会包摂プログラムに取り組んでいる。また、劇場ツアーを積極的にに行い、参加者は330人で初めての割合は20%、満足度も96%と高く、舞台芸術の関心を高め、劇場を身近に感じてもらえるような企画も行っている。 ◎オルガン・ア・ラ・カルト 世界最大級、唯一の回転式パイプオルガンを活用したコンサートなどを行う「オルガン・ア・ラ・カルト」は、休館前の半年という短い期間だったにもかかわらず、東京MX(後援)の広報協力によるテレビCM効果などもあって、入場者数、有料率、満足度、いずれも目標を高く上回った。休館期間も、オルガン文化が発展する英国を視察し、今後に向けた準備を行った。
		(2)施設の貸出 （展示室、リハーサル室、会議室）	展示室やリハーサル室等について積極的な貸出を行う。	×1	○	
		(3)芸術文化の振興に関する事業 （音楽）	質の高い事業を発信しつつ、地方館との連携強化や国際的な事業展開を行うとともに、オンラインプログラムの製作など、最先端技術の活用にも取り組んでいる。	×2	○	
		(4)芸術文化の振興に関する事業 （舞台芸術）	質の高い事業を発信しつつ、地方館との連携強化や国際的な事業展開を行うとともに、オンラインプログラムの製作など、最先端技術の活用にも取り組んでいる。	×2	◎	
		(5)芸術文化の振興に関する事業 （育成・支援）	次代の舞台芸術を担う人材の育成事業を積極的に企画・実施している。	×1	○	
		(6)芸術文化の振興に関する事業 （次世代への投資・社会的課題の解決）	子供、高齢者、障害者等多様な主体を対象に、劇場を身近に感じてもらえるような教育普及プログラムを企画・実施し、次世代に舞台芸術を継承するとともに、社会的課題の解決に取り組む。	×1	◎	
		(7)芸術文化の振興に関する事業 （劇場の賑わい創造事業ほか）	多様な人々がともに参加できる、楽しく賑わいのある空間を創出する。	×1	○	
		(8)パイプオルガンの保守・管理及び活用	パイプオルガンを活用し、オルガン音楽の魅力を普及させる。	×1	◎	
		(9)その他の事業	水天宮ビツの運営等、その他の事業についても適切に実施している。	×1	○	
	運営の実施状況	(1)休館日及び開館時間	ニーズを踏まえ臨時開館や開館延長を行っている。	×1	○	◎連携・協力体制強化 「母」「息子」は国内8都市、「ラ・ボエーム」は国内7都市の公共劇場で公演を開くなど、国内劇場との協力及び連携した事業を展開した。休館期間は世界各国の国際フェスティバルに職員を派遣し、劇場同士の連携を強化したことで、次年度ルーマニアのシビウ国際演劇祭との共同制作公演が東欧6都市で決定するなど、新たな成果を得た。 ○地域連携 地域団体との共催で、池袋モンパルナス回遊美術館、東京フラフェスタ in 池袋、ふくろ祭り・東京よさこいなどを実施した。また、劇場を複合的に利用したフェスティバル開催時には、劇場前広場、グロー・パルリングと連携し賑わいを創出した。 ○広報 Xは休館中の工事の様子などを発信し、フォロワー数が増。休館期間に「ブランディング・プロジェクト」を設置し、地域に開かれた劇場として、芸術劇場のさらなる魅力向上に力を注いでいる。
		(2)都及び関係機関との連携・協力	都や他のホール・劇場等との連携・協力体制を維持・発展させる。	×2	◎	
		(3)地域連携	地域と連携した事業展開・広報活動を行っている。	×2	○	
		(4)広報、プロモーション	HPやSNSをはじめとする様々な媒体での魅力発信に努める。	×2	○	
		施設サービスの 実施状況	(1)多様な利用者に配慮した施設設備	施設設備面におけるバリアフリー化を推進している。	×2	
	(2)案内・表示		館内サイン等について、多言語対応、バリアフリー化を積極的に進めている。	×1	○	
	(3)館内サービス （基本的サービス、飲食・物販施設）		商品の充実等を図り、魅力的な飲食・物販施設等の運営を行っている。	×1	○	
	(4)館内ホスピタリティ、苦情対応		委託業者等とも綿密に連絡を取り、ホスピタリティの向上に努める。	×1	○	
	(5)顧客満足度指標		総合満足度の割合	×1	◎	
	(6)その他 （利用促進に向けた新たな取組）		利用者アンケート等により顧客ニーズを把握し、サービス向上に努める。	×1	○	
	総合	方針と目標の 達成状況	基本方針と達成目標	・各定性・定量目標を着実に達成している。 ・事業計画に基づく、適切かつ継続的な事業運営が行われている。 ・多彩な事業がバランスよく実施されている。	×2	○

※評価：◎水準を上回る（2点） ○水準どおり（1点） △水準を下回る（0点）

【一次評価結果】

得点	一次評価結果
48	B

標準点	評価基準	S	52点以上
39点		A	49～51点
		B	35～48点
		C	34点以下

指定管理者の財務状況
財務状況には課題がなく、健全化に向けた取組が行われている。

特命要件の継続		
特命要件	有	無
運営にあたって、都政と連動し、時代の要請に柔軟かつ迅速に対応する。	○	
幅広い分野における資料・作品の収集、保存・管理や調査研究を行うとともに、魅力的で創造性豊かな事業や展覧会を実施する等、専門性・学術性が極めて高い。	○	
各施設の取り扱う幅広い分野の専門人材、ノウハウ、他機関とのネットワークを豊富に有する。	○	

※評価水準欄に記載された事項を中心としつつ、確認項目毎に実施内容を総合的に評価する。

特記事項	
要改善事項等	